

令和4年度 学校関係者評価委員評価 集計表

評価尺度 4: 適切 3: ほぼ適切 2: やや不適切 1: 不適切

項目	自己評価 平均値	評価委員 平均値	意見・助言・要望等
教育理念 目的・人材 育成像	3.4	4.0	病院としては卒業後すぐに現場で働ける人材はありがたい。 新カリキュラムには時代の変化に対応していくことが求められて いると思うので、それを具現化してほしい。
学校運営	2.6	3.0	働きながら学べる学校は必要とされている。 このままでは学校運営が厳しいことはわかったので、改革してい くことには賛成である。 入学生が定員に達することで、運営に余裕ができるのはわかった ので、学生募集に力を入れることを望んでいる。
教育活動	2.9	3.0	昨今の新人教育を見ていると、学生の年齢層が10代～50代と幅広 いとその教育は難しいだろうと推察している。 電子教科書の導入により、教科書代は節約できている。
学修成果	3.0	3.0	年齢層が違う学生が同じカリキュラムで学ぶ難しさがあると感じ る。 国家試験対策は学生任せにせず、個別の指導を考えた方がよい。 働きながら学びに来ていることもあり、就職率は高く維持でき ている。同窓会でも卒業生の活躍を耳にしている。 学校運営、学生募集、学修成果のどれをみても国家試験の合格率 を上げる必要性は高い。
学生支援	3.0	3.0	卒業生が職場に残り活躍している一方で、長くいることの弊害と して学習意欲、向上心の減退も感じている。 学業でつまづく学生などはもっとタイムリーに職場との連携が必要 だと思う。 就職活動の支援として情報提供してもらっている。
教育環境	2.7	3.0	校舎は築20年になる。清掃等行き届いている。 老朽化は仕方ない部分もあるが、空調設備等必要な修繕はして いってほしい。 感染対策はしっかりなされていて、学校内で広がることもなく経 過できているのはすばらしい。
学生募集	3.1	3.0	若い人口自体が減少している。准看護学校との連携の強化をし て、進学率が上がればよいと思っている。 看護を目指す人が減っていて、病院の求人も苦勞している。 学生の立場から、年齢が高くなると早く資格を取れることを重視 し、2年制の学校を選ぶことが多い。 入学試験を5回もあるのは反ってどんな学校なのかと疑念を抱かせ ないか。
財務	2.3	2.0	学生数に依存するため、厳しいのはよくわかる。出費を切り詰め る努力は最大限されていると思う。
法令等の遵 守	2.7	3.0	法令に沿い、学校運営がなされ、教育課程ができていく。 自己評価等で懸案とされている部分の改善を実施すればよい。
社会貢献 地域貢献	2.6	2.5	学業と仕事の両立をしている中、ボランティア活動は時間的にも 厳しいと思う。 地域であまり目立つ学校ではない。 どこもコロナ禍で縮小していて、下火になっていたと思うので、 今後に期待している。